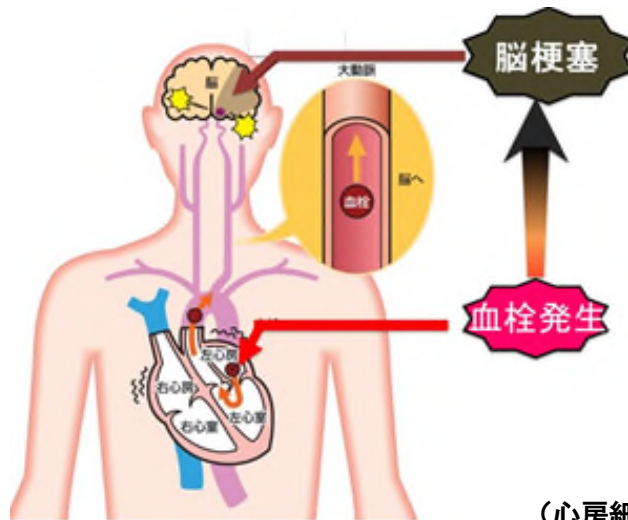


第7話 心臓の病気から脳梗塞を発症

心臓の病気が原因で脳梗塞を生じる場合があります。とくに心房細動といわれる不整脈があると心臓内に血のかたまり(血栓)ができやすくなります。それが脳の動脈に運ばれて、脳の太い血管を詰めてしまうと、大きな脳梗塞となります。これを「心原性脳塞栓症」と呼びます。

心原性脳塞栓症発症のメカニズム

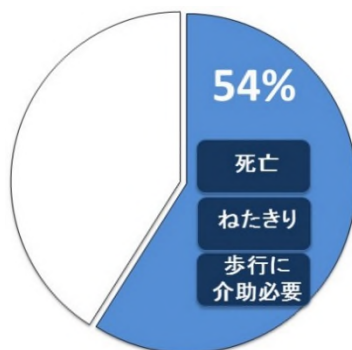


(心房細動週間ウェブサイトより)

1. 最も重篤になりやすいのは、心源性脳塞栓症！

ラクナ梗塞やアテローム血栓性脳梗塞(第3話参照)に比べて脳の傷む範囲が広く、6割近くが死亡・寝たきりもしくは歩行にも介助が必要な状態になります。

心原性脳塞栓症の重症



(心電図 31(3):292-296, 2011)

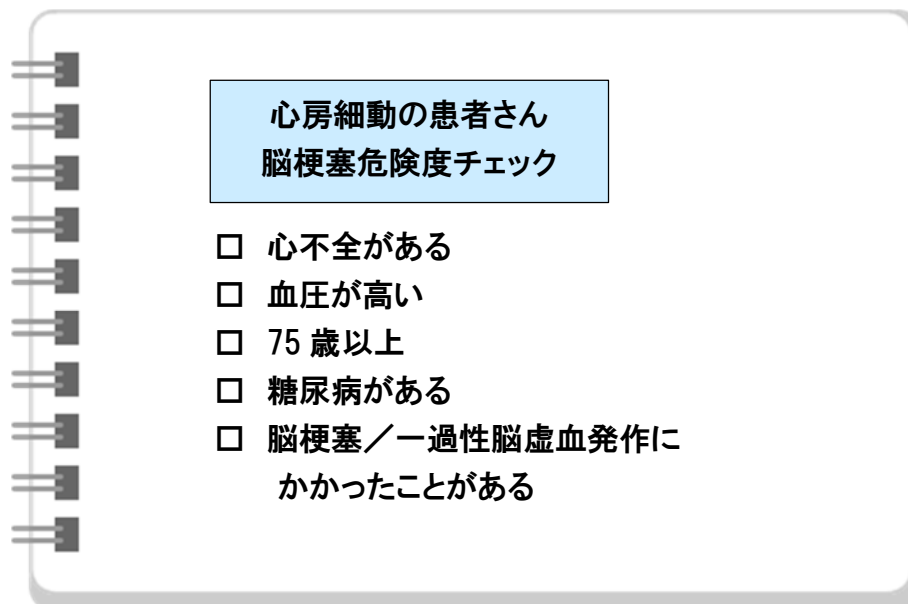
2. 心房細動はどうして見つけるの

心電図で診断します。動悸や胸の不快を感じる場合は要注意です。自覚症のない心房細動や一時的に出現する心房細動も少なくありません。日頃からご自分で脈をとる習慣をつけてください。

脈が**不規則**、脈が**弱い**、脈が**数えられない**場合は心房細動が疑われます。医師と相談することをお勧めします。

3. 心房細動と診断された患者さんへ？

脳梗塞になる危険度を下の表でチェックしてみてください。1項目でもあれば、脳梗塞の予防について、医師と相談することをお勧めします。



心房細動の患者さん
脳梗塞危険度チェック

- ☐ 心不全がある
- ☐ 血圧が高い
- ☐ 75 歳以上
- ☐ 糖尿病がある
- ☐ 脳梗塞／一過性脳虚血発作にかかったことがある

4. 心原性脳塞栓症、予防法は？

心臓内に血栓が出来ないように、血液が固まり難くなる薬(抗凝固薬)を使います。これらの薬は、飲みすぎると出血の危険が生じ、怠ると脳梗塞が予防できません。医師の指示した量や回数を、必ず守ってください。